

超ゆとり教育



ふらいんぐ ■ おねえさん -Vol.1-

ふらいんぐ ■ いっちの茜 & 犬養お姉さんおっばいCG集!

ふらいんぐおねーさん-Vol.1-



茜「いやーっ、いっぱい汗かいちゃったから、さっぱりしたよーっ！いつでもシャワーに入れる
日本ってやっぱり便利だよねー」

真琴「ちよっ！！？おっ、お姉ちゃん服服っ！！」



茜「細かい事言わないのー真琴は♪無礼講無礼講、はっはー♪」

真琴「いくら家の中だからって…、仮にもK君の前でそんな…」



K「まーちょっと気持ちわかるかも。俺も夏、暑いとパンツ一枚でうるついたりしたしさ。
…真琴が来る前の話だけど。それでかーちゃんによく怒られたな」

茜「そそっ、固い事言っこなしだっ♪」

真琴「結局怒られてる事には変わらないじゃないですかー」



茜「ねえ、K? ほれほれ、今ならおっぱい見放題だぞーっ♡ぶるんぶるーんっ♡♡」

K「はあ…?」

真琴「……………」



茜「んしょ…っ♡ぶら…っ♡♡」

K「ちよ…ねーちゃん、いきなりなんで脱いでるんだよ」

茜「何って…決まってるじゃん♡KとこれからHするんだよ♡♡Kの筆卸し、あたしがきっちりやっただげる♡」

脱^ぬ
ちよ
ね

ちよ
ね



K「いきなりそんな事言われても…」

茜「ほらほら、そう言ってもKの目、おっぱい追ってる♡」

K「んぐっ、ああ…ちくしょう…」



茜「あらら…ホントにガン見しちゃってる…っ♡こりや本当に溜まっちゃってるみたいだね…」

K「…ゴクリ」

茜「ふふ…っ、よしよし…っ♡」



茜「大丈夫、安心しな。そんな変なつもりじゃないから、今は素直にあたしの言う通りにして…」

茜「いっぱい、気持ちよくなる♥ねっ、Kえ♥」

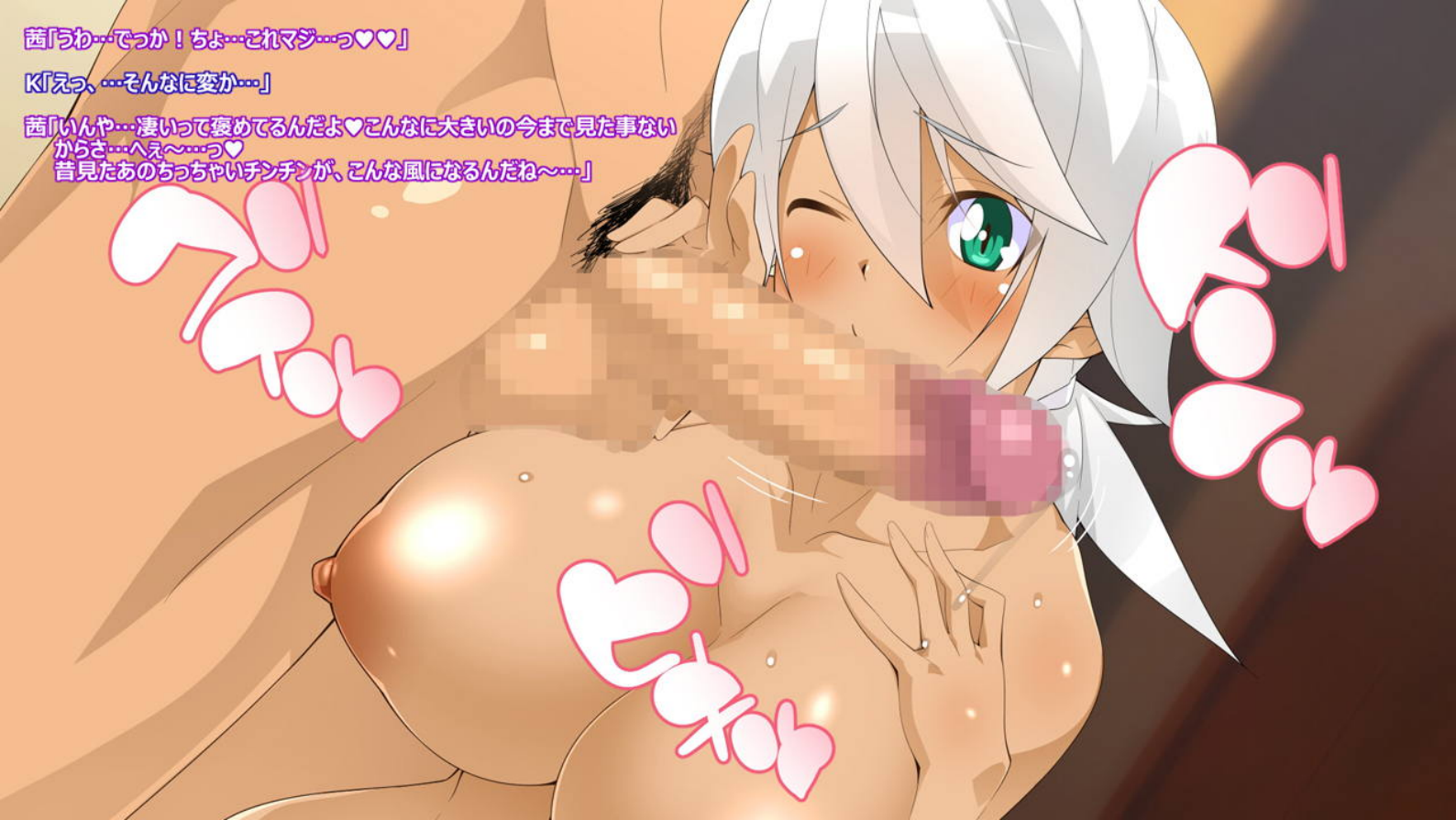
K「う…うう…うん…」

茜「よし…っ♥♥(あ…こっちもドキドキしてきた…フフッ♥)」

茜「うわ…でっか！ちよ…これマジ…っ♡♡」

K「えっ、…そんなに変か…」

茜「いんや…凄いて寝めてるんだよ♡こんなに大きい今まで見た事ない
からさ…へえ…っ♡
昔見たあのちっちゃいチンチンが、こんな風になるんだね…」



茜「臭いだって凄いいし…ふふ…っ、これはやりがいがありそうだねえ…っ♡♡」

茜「それじゃK、少しばかり味見…させてもらうね…っ」

K「おっ、おう…」



茜「んあむっ♥♥ぢゆるるっ♥んぐっ♥♥」

K「うっ！！ねーちゃんの中の中…っ！」

茜「ぢゆるっ♥ぢゆぼっ♥ぢゆぢゆっ♥♥ごっ♥」



茜「ひゅごっ♥Kのひんぽっ♥おっひふぎい♥くひんなかつ、はいりひらないっ♥ぢゅるるっ♥♥」

K「うおおっ!!くらっ!!」

茜「(口の中いっぱいKのいるんなものが混ざった味が広がってくるっ♥♥
これが、これがKのチンポっ♥男の子の味っ♥♥)」



茜「こんにゃのっ♡♡ぢゅばっ♡♡れっらいっ♡♡やみふまににやるにっ♡♡ひまっへんにやんっ♡♡」

茜「(すごっ♡♡チンポしゃぶっただけでやばいっ♡♡テンション上がるうっっ♡♡こんなの反則っ♡♡)」

K「やっべ…気持ち良すぎる…！」



茜「ぢゅぼっ♡♡ぢゅるるっ♡♡ぢゅぞっ♡♡ごくんっ♡♡ぢゅぢゅっ♡♡」

K「あぁ、イク…ねーちゃん…射精そう…っ！」

茜「いひよっ♡♡だひなっ♡♡へんぶっ♡♡おにえーひやんがっ♡♡
のんれあへるっ♡♡♡♡」



あ
ぢゅ
ぢゅ
ぢゅ

ん
ぢゅ
ぢゅ
ぢゅ

い
ぢゅ
ぢゅ
ぢゅ

K「っっ!! うう…っ!!」

茜「んっっ♥♥♥んぶっ♥♥♥」

茜「(うおおっ♥♥♥Kのクリームチーズみたいなザーメンがっ、口の中にいっ♥♥♥
やばっ♥♥♥多すぎっ♥♥♥こんなの飲みきれ…っ♥♥♥)」



茜「…………っ♡♡んふっ♡♡…ぢゆるるっ♡♡ごく…っ、ごくん…っ♡♡」

K「すげ…俺のを全部飲んでる…」

茜「(んんっ♡♡喉を通る度に…っ、ねばねばが絡み付いてきて咽そっ♡♡でも…っ、止めらんない…っ♡♡飲まずにはいられないっ♡♡)」



茜「…はぁ〜〜っ♡♡♡」

K「ねーちゃん…その…、ありがと…」

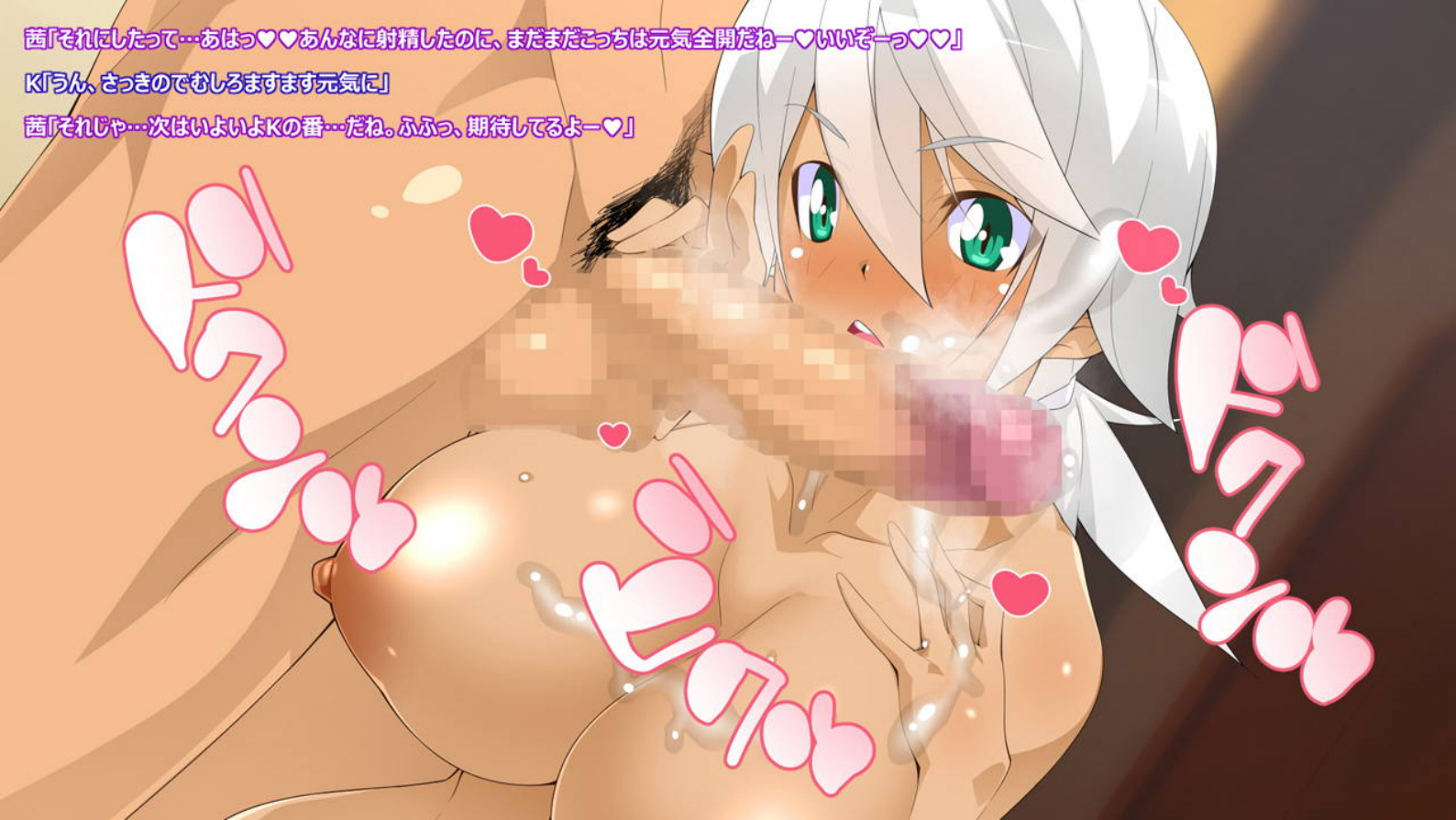
茜「なーに言ってんの、Kーっ♡こっちこそごちそうさまーっ♡Kのオチンポ汁、
とっても濃厚で美味しかったよーっ♡」



茜「それにして…あはっ♥♥あんなに射精したのに、まだまだこっちは元気全開だねー♥いいぞーっ♥♥」

K「うん、さっきのでむしろますます元気に」

茜「それじゃ…次はいよいよKの番…だね。ふふっ、期待してるよー♥」





茜「(ちょっと前に犬養とそんな話したけど…こんな事になるなんてね…わかんないもんだねー)」

K「…隣で寝てる真琴に気づかれないかな」

茜「平気っしょー、あの子一度寝たら朝まで絶対起きてこないから」

茜「さて...と♡あたしはそのまま寝そべっていいのかな~♡わかんなかったら教えてあげようか?♡」

K「へっ、平気...それくらいわかるべ」

茜「(強がっちゃって...、ふふっ♡でも...初々しいのもまた可憐くていいね...っ♡♡)」



茜「間違っで違う方に入れちゃ駄目だよー、んっっ♡♡」

K「わかってるって…よしっ、ほっ、入ったっ」

茜「んんっ♡♡ああっ♡♡♡」

茜「(どうとう本当に…Kのオチンチン…入っちゃったあ…っ♡♡)」



K「うあ…膣内の感触…すげえ」

茜「そーだよー、Kのおちんちんがね…、あたしのいっばん気持ちいいとこまで入っちゃってる…♡
K「え…好きなように思いっきりかき回していいからね…っ、期待してるよっ♡♡」

K「う…うん…っ、やるぞ」



茜「んひっ♡んんっ♡あぁ、あぁ♡んく♡んえ、んえ、んんっ♡♡」

K「はぁ、はぁっ！」

茜「(んふふっ、Kったら夢中になって…っ♡♡がむしやらに突いてきてるっ♡♡
ほんと、可愛いんだから…っ♡♡)」



茜「んあっ♡♡Kえっ、気持ちいい？♡♡お姉ちゃんのオマンコっ、んん…っ♡♡
もっと、突き回したい？♡♡」

K「うんっ、めちゃ気持ちいい…っ！」

茜「そっかさっかあ…っ♡♡んひっ♡♡いいよっ、いくらでも膣内を突いてっ♡♡」



K「はあ、はあ！ねーちゃんも…っ、気持ちいいか…？」

茜「もっちゃん…っ♡♡Kのオチンポ…っ、すごい気持ちいい…っ、太くて固くて…
大きいのが奥まで簡単に…届いちゃってる…っ♡♡」

K「おっ、おし…じやあもっとなん張るっ」



茜「んあぁっ♡♡そこおっ♡赤ちゃんのお部屋の入り口…っ♡♡K気、今おんちんの当たってるところが…
女の子が一番気持ちよくなれるとこ…っ、ガンガン突いちゃってる…っ♡♡」

K「これがそうか…っ、コソコソしてる…！」

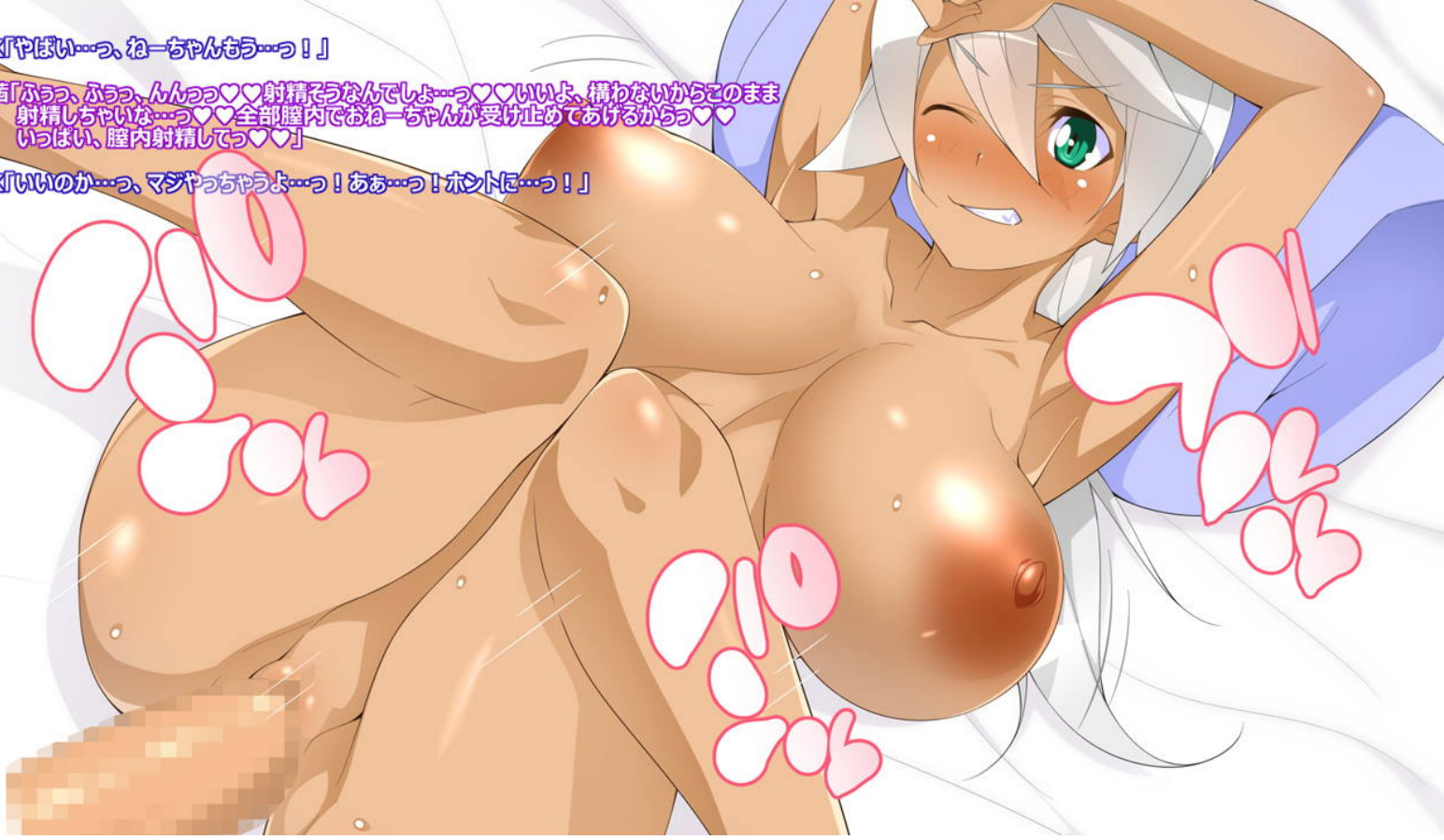
茜「んあぁっ♡♡♡(ますますおんちんの突きが強くなってきたぁっ♡♡
回い先っほ部分がっ、子宮口にコソコソって当たって…っ♡♡ディープキスしてるっ♡♡)」



K「やばい…っ、ねーちゃんちやう…っ！」

茜「ふっっ、ふっっ、んんっっ♡♡射精そなんでしょ…っ♡♡いいよ、構わないからこのまま
射精しちゃいな…っ♡♡全部膈内でおねーちゃんが受け止めてあげるからっ♡♡
いっぱい、膈内射精してっ♡♡」

K「いいの…っ、マジやっちやうよ…っ！あぁ…っ！ホントに…っ！」



茜「んっっ♡♡♡あぁ、あぁっ♡♡♡んんあぁっ♡♡♡」

K「ふっ!!うっっ!!あぁっ!!」

茜「(熱いのが...っ、Kのザーメンが膣内に流れ込んでくるっ♡♡♡膣内射精されちゃってるっ♡♡♡
Kの精液っ、オマンコが一番奥で受け止めてるっ...っ♡♡♡)」



K「はあ…っ、はあ…っ」

茜「はあ…っ♡はあ…っ♡お姉ちゃんも、KとH出来て…めっちゃ良かったよお…っ♡♡
病み付きになっちゃいそう…っ♡♡」

K「そっ、そう…かな、俺…そんなに良かった…？」

茜「うん…っ、最高…っ♡♡♡」





茜「どくどくっ…ふい〜、すっきりした〜少ほい、Kの分の水。…どう？少しは落ち着いた？」

K「あ…っ、どうも…ありがとう、ねーちゃん。うん…まあさっきよりは半分」

茜「さっきのK凄かったもんねー、あたしもびっくりだったよー、色々」と



K「その…ねーちゃんごめん。勢いでその…膣内射精までしちゃって」

茜「いいのいいのー、同意の上なんだから気にする事ないってー。それよりさー、どうだった？お姉ちゃんとのセックスはー？人生初めてだったんでしょ？」

K「うん…めっちゃ気持ちよかった」



K「ねーちゃんこそ平気か？」

茜「こんなの大したことないよ～、ふいふい♥♥あたしもすごく久しぶりに気持ちよくなっちゃった♥
Kのオチンチンがおっきいせいかな、ふふっ♥♥」

K「そう言われると照れるな」



K「……………」

茜「(お〜っ、また見てる見てるう〜っ♥あたしのおっぱい、わかりやすいくらいガン見してるっ♥あんなに激しかったのに復活早すぎだね…っ♥魔男半端ないわ〜っ♥)」

茜「(でもこれだけ正直にムラムラしてくれると、こっちもやっぱり嬉しいもんだね…っ♥ふふっ♥)」



茜「よ〜し…それじゃーちょっと休んだらまた続きやろっか？♥」

K「えっ！…まだいいのっ？」

茜「Kこそ、まだまだやり足りないっしょ？♥ちゃんと全部吐き出すまで、お姉ちゃんが付き合っあげよー
じゃないか♥ムフツ♥」



K「じゃっ、じゃああの…せっ、せっかだから…そのっ」

茜「んん〜っ？何かして欲しい事あんの？言っちゃえ言っちゃえ〜っ♥お姉さんがなんでも聞いたげるよ〜っ♥
さあ、K君はどうしてもらいたいのかなあ〜っ♥」

K「その…っ、ねーちゃんのおっぱいで…っ」



茜「昔の人は…っ、よく考えたもんだねっっ♡♡こんな風に…っ、おちんちん
気持ちよくする方法思いつくんだからさ…っ♡♡」
K「ねーちゃんのおっぱいがデカいおかげさ…っー」
茜「ありがとー、K♡それじゃあしっかり有効活用…っ、
していかなくっちゃあねっ♡♡うりやっ、うりやっ♡♡」

70%

いっほいっほ

いっほいっほ



「あーっ、おっっ♡♡♡ふふっ、Kの濃厚な射精しちゃうんだしゅっ♡♡♡
わかるよっ♡♡♡おちんちんがぶくっって膨れてきて、
今にも爆発しそうっ♡♡♡」
「あーっ、おっっ♡♡♡ふふっ、Kの濃厚な射精しちゃうんだしゅっ♡♡♡
わかるよっ♡♡♡おちんちんがぶくっって膨れてきて、
今にも爆発しそうっ♡♡♡」
「あーっ、おっっ♡♡♡ふふっ、Kの濃厚な射精しちゃうんだしゅっ♡♡♡
わかるよっ♡♡♡おちんちんがぶくっって膨れてきて、
今にも爆発しそうっ♡♡♡」

ぽっ
ん

ぽっ
ん

ぽっ
ん



茜「まじやう♡♡♡♡♡うわわ♡♡あは♡♡♡す♡♡♡♡♡なにを射精るんだ♡♡♡♡♡」

茜「おっぱいの中で、Kのおちんちんがびくびくして跳ね回って壊れた蛇口のホースみたいにザーメン撒き散らして♡♡♡♡♡」

「♡♡♡♡♡はあ♡♡♡♡♡はあ♡♡♡♡♡はあ♡♡♡♡♡」



茜「はあ〜っ…っっ♡♡♡すっごいたくさん射精たねっっ♡♡おかげで
ドロドロだよっ♡♡Kのねほねはザ〜ヌンがあちこち
飛び散っちゃって…っ♡♡それにこの匂い…っっ♡♡♡」
K「はあ…っっ…はあ…っっ…ハイヌリ…超気持ちいい…っっ」
茜「うふっっ…なんて幸せな顔してんのー♡♡♡っすまま嬉しくな
じゃない♡♡Kこれからはお姉ちゃんに頼めば
いつでもいくらでもハイヌリしてあげよ〜ねっ♡♡♡」



茜「んっ、んんっ♡♡そそっ、それでいいよ…っ♡落ち着いて…っ、ゆっくり楽しまなくっちゃ…っ♡♡
んあっ♡♡」

K「うんっ、ねーちゃん…っ、はあっ、はあ…っ」

茜「あっ、あっ、んんっ♡♡オチンポ…っ、奥まで届いて…っ♡♡んくっ♡♡」



K「ねーちゃんのおっぱい…目の前で揺れて…っめっちゃエロい…っ！」

茜「んふっ♡♡Kったら…っ、昔っからホントおっぱい好きだねえ…っ♡♡」

K「だって…っ、ねーちゃんのおっぱい、デカイし…っ！」



茜「あんなにちっちゃかった子が…いつのまにかこんなに逞しくなっちゃって…っ♡♡あたしと…っっ♡♡
んんっ♡♡」

K「うああっ！ねっ、ねーちゃんっ、その動き…っ！！」

茜「へっへ～っ♡♡良い声出たね、Kえ～♡♡こうやって腰回すとお～っ、めっちゃ気持ちいいっしょ♡♡」



K「ねーちゃん…気持ち良い…っ！ずっとこうしてたい…っ！」

茜「いいよ～っ、K～。いつでも好きなだけHな事させてあげるから～、遠慮しないでいくらでも頼みな～っ♡♡
あたしもたまんないくらい気持ちいいからさっ♡♡」

K「うんっ、うん…っ！ねーちゃん…っ！」



茜「んっ、んっ、んんっ♡♡おちんぽガンガン来る…っ♡♡お姉ちゃんイキそう…っ♡♡
Kもそろそろだよね…っ♡♡それじゃ一緒に…っ、んんっ♡♡イこっか？♡♡」

K「はあっ、はあっ！イク…！」

茜「いいよ…っ♡♡それじゃ…っ♡♡とびっきり濃いのをまた…っ、お姉ちゃんの膣内に…っ♡♡
いっぱい射精してえっ♡♡あっ、あっ、あっ♡♡イクっ、イクっ♡♡」



K「ふっわっ!!ん…っ!!ああ!!」

茜「んああっ♥♥♥あ……っわっ♥♥♥い…っ、くら……っわっ♥♥♥」

茜「(どっ、どっで膣内でオチンポが脈打ってっ♥♥♥やけどしそくらい熱い精液がっ♥♥♥
いっぱい射精てるっ♥♥♥)」



茜「ん……っっ♡♡♡はぁあ～……♡♡♡はぁ～……っ、はぁ～……♡♡また……いっぱい射精しちゃったね……っ♡♡
Kえ……♡♡ねえ……、ぎゅっど手握って……っ♡♡」

K「うん……、ねーちゃん……っ」

茜「明日からもい～っぱい、Hしようね……っ♡♡Kえっ♡♡いつだって……っ、どこだって……っ、付き合っただけ……っ♡♡」

K「おー…おー…おー…おー…おー…」

茜「すび…すび…すび…すび…すび…」

K「何食べたらこんなに「デカくなるんだろ…」でも…すげえ」





「K」寝てるねーちゃんにいたすらとか…なんつーか…背徳感半端ない…っ」
「K」揉んでるだけですげー気持ちいいぞ、これ…」
「茜」んにゃ…っ♡んあぁ…っ♡すびーっ」



「あ…あ…あ…あ…あ…あ…」

「あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…」

「あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…」



K「うおお…っ！丸見え…っ」

茜「すび…すび…」

K「これでもまだ起きないとか…逆に凄いな…でもそれなら」



西「んあ…っ♡んにゆ…っ♡♡ふあ…っ♡♡」
K「慎重に…っ、ゆっくり…っ！！うお…っ！」
K「(これもう完全に犯罪…っ、だよな…っ！)」



K「ねーちゃんの膣内…っ、めちゃくちゃ…気持ちいいっ！」

茜「ふ…っ♥♥んあ…っ♥♥はにや…っ♥♥んん…っ♥♥」

K「くあっ！ ふうっ！ はあっ！」



茜「あ…っ♥♥んん…っ♥んお…っ♥♥」

K「ねーちゃん…もしかして反応してる…っ？」

K「だったら…もっと突く…っ！」



K「はあっ、はあっ！もっ、もう限界…っ！射精すよ…っ！」

茜「あ…っ、んんっ♡♡はあ…っ♡♡んあ…っ♡♡」

K「射精るっ、射精るっ！！ああ…っ！！！！イクっ！！！！」



茜「つつ……………♡♡♡♡♡♡♡♡」

K「ぐっ！！はぁ、はぁっ！！」

K「さっ、最後の一滴まで…つつ、全部…つ、ねーちゃんの膣内に…つつ！！！！」



茜「んふふ…っ♡♡またいっぱい射精たねえ…、Kえっ♡♡あたしの膣内…っ、あんたの精液でたっぶたぶだよ…っ♡♡」

K「えー…っ、ねーちゃん起きてたのか…っ！やられた…っ！」

茜「にひひ〜っ♡ごめんね〜、Kの反応が見たくって〜、途中から寝たフリしてたんだよ〜んっ♡♡」



K「くっそ…ねーちゃんには敵わないなあ」

茜「あははっ、ごめんごめんっ♡でも、Kえ♡その分、めっちゃ良かったっしょ？いつもよりさらに興奮してたよ〜っ♡」

K「確かに…って、そういう事じゃないってば」



茜「よっと！…いやーねー、Kがちよいと心配になっでさー、様子を見に来たってわけよー。はっはー♡
茜おねーちゃんの特別主張サービス♡な〜んでねっ♡♡」

K「様子見に来たって…こんな昼間に空飛んで大丈夫なん？」

茜「まあそこそこは魔法でチオイチオイ…とね♪ちなみにこれ、真琴の制服ねー。勝手に借りちゃった♡」



茜「やっぱり真琴のだとかなりキツイねー、特に胸のあたりが。あの子も大分おっさくなってると思うんだけど」
K「...どくっ」



茜「…おっ、やっぱ反応してくれてる♡むふふ〜っ、どう？あたしもまだまだ現役でいけるっしょー？♡♡」

K「なんつーか…ギャップがたまんない」

茜「よしよし…わざわざ来た甲斐があるってもんだよー♡」



K「つか、そろそろバレル前に帰ってくれよ」

茜「あーだめだめーっ、あんた朝にしっかり処理しなかったでしょ？今のKは一日最低10回は射精しないと大事なタマタマが破裂しちゃうんだぞ(多分だけど)」

K「まさか…ここで処理すんの？」



茜「そのために来たんだし♪…安心しなよ、学校にはバレないって。っつてか、早くしないとホントにやばいんじゃない？」

K「うく…っ、じゃあお言葉に甘えて…」

茜「そーそー、遠慮しなさんな…ふふっ♡♡」



「Kしたら夢中になつておたしのおっぱいはさうさうなうた……♡♡♡
乳首全体を舐るように舌で舐がして強々吸い上げて……♡♡♡」
「どんなに頑張つてもミルクなんか出なから……♡♡♡可愛さ……♡♡♡」

「LUN……だうの……美味……」
「へんげ……」



「うん...おっ...」
「うん...おっ...」
「うん...おっ...」

「うん...おっ...」
「うん...おっ...」
「うん...おっ...」

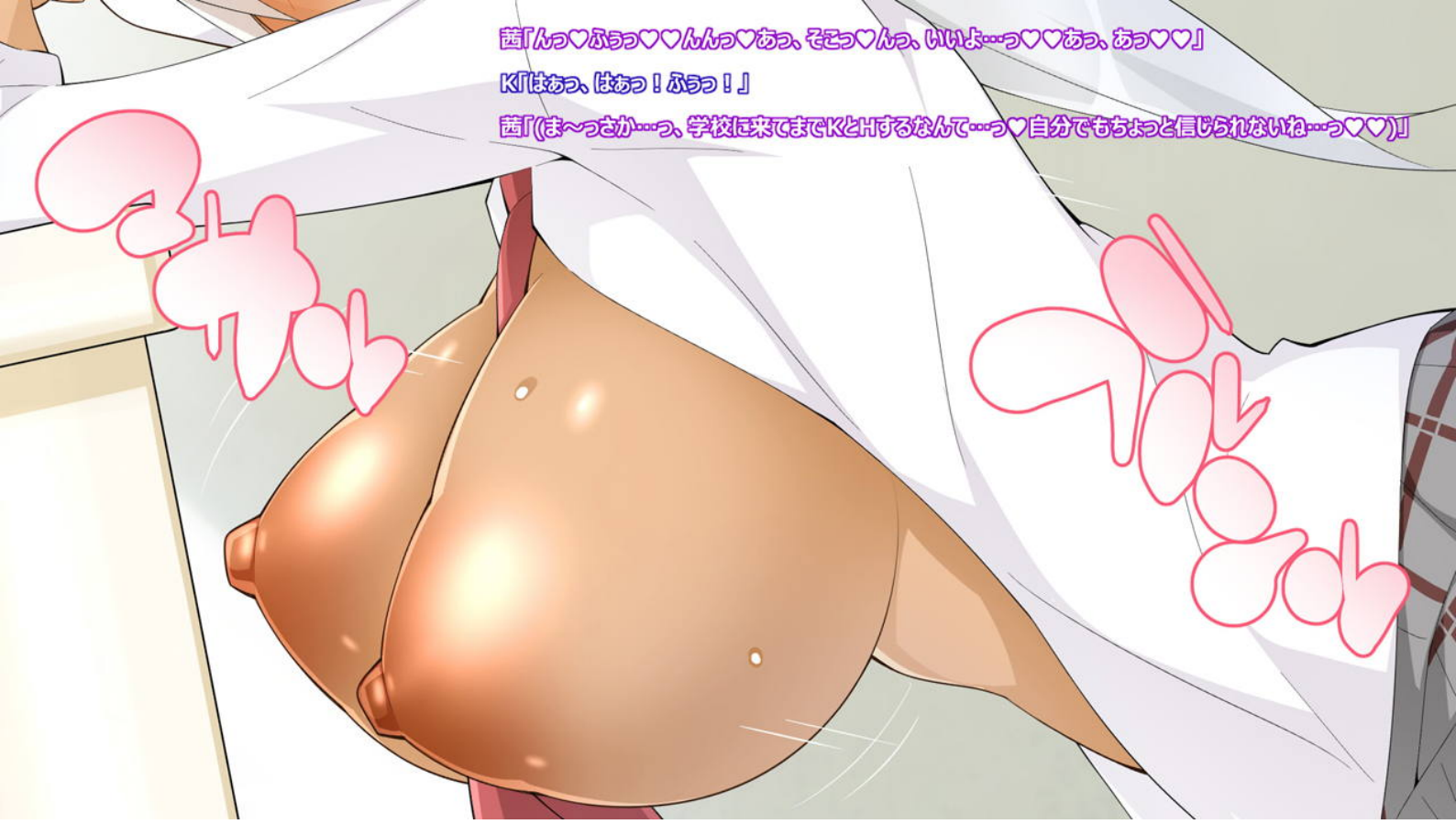


茜「今頃真実やなおちゃんは真面目に勉強してゐるっていらつた……♡
トイレであたしたハイスリされて……幸せだね、Kは……♡♡♡」
K「うん……、俺もさう思う♡」
茜「ふふっ、Kのそのうらう素直な♡、おねーちゃんも好きだよ……♡
んじょっ♡♡♡」

茜「んっ♡ふっ♡♡んんっ♡あ、そっ♡ん、いいよ…♡♡あ、あ♡♡」

K「はあ、はあ！ふっ！」

茜「(ま…っか…っ、学校に来てまでKとHするなんて…♡自分でもちよと信じられないね…♡♡)」



茜「んはっ♡んんっ♡あぁ、あぁ、あっ♡♡Kのチンポ…っ、いいよっ♡おねーちゃんの気持ち良いとこまでっ、
しっかり…っ♡届いてるよっ♡♡」

K「おねーちゃんのオマンコもっ、めっちゃ締まるっ」

茜「んくっ♡♡あっ♡♡Kのがっ、…太すぎるんだよっ♡♡あたしのオマンコっ、限界まで広がっちゃってる♡♡」





K「ふっ！ふっ！気持ちいいっ！」

茜「そろそろ、授業に戻らないとっ♡いい加減、んひっ♡怪しまれるかもよ〜っ♡んっ♡んあっ♡」

K「今更…っ、それは無理っしょ！」

茜「んふっ、だよね〜っ♡あ、あ♡♡」

Fufu

Fufu

Kunob

茜「(あ〜っ、やばいな〜っ♡あたしもどんどのめり込んできてるっ♡Kとセックスするのが気持ち良すぎて〜っ)」

茜「(こんな風に…トイレで犯されてるのに…っ♡♡超気持ちいいんだもん…っ♡♡)」

K「お尻も…っ、柔らかくて気持ちいいなあっ」

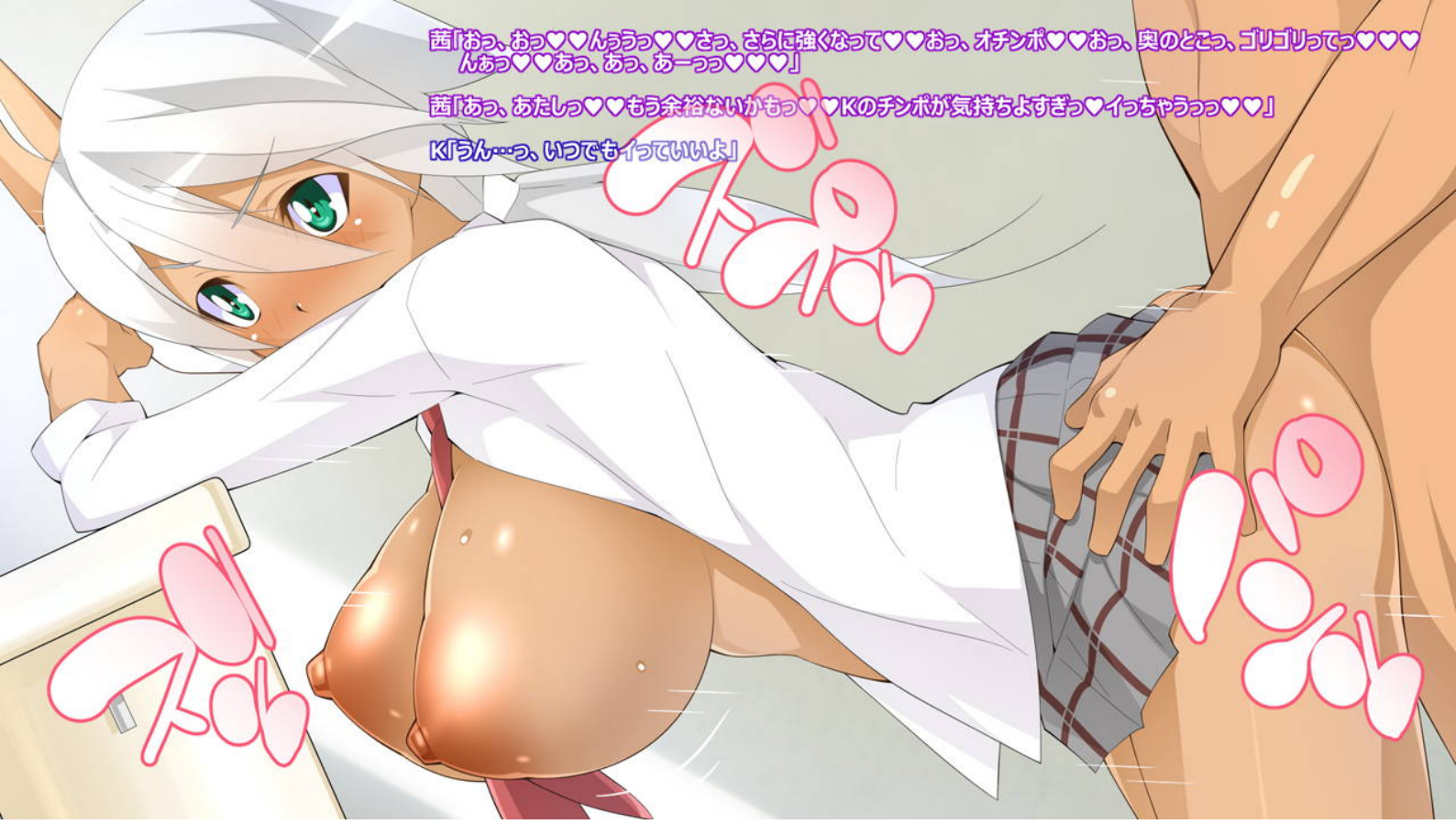
茜「あっ、そお♡♡じやあ突き甲斐があるって…もんだねっ♡♡んっ、んっ♡♡」



茜「おっ、おっ♥んうっ♥♥さ、さらに強くなって♥♥おっ、オチンポ♥♥おっ、奥のどっ、ゴリゴリっ♥♥んあっ♥♥あ、あ、あーっ♥♥♥」

茜「あ、あたし♥♥もう余裕ないかも♥♥Kのチンポが気持ちよすぎ♥♥いっちゃうっ♥♥」

K「うん…っ、いつでもいいよ」



西「あぁ、あぁ♡♡ダメダメ、Kも一緒に♡♡んっ♡あぁ、イクッ、イクっ♡♡」

K「あぁ、俺も…っ！ねーちゃん射精…っ！」

西「はぁっ、はぁっ♡♡きてっ、きてえっ♡♡お姉ちゃんのお腹中になっ、Kのザーメン♡♡流し込んでえっ♡♡！」





茜「うわっうわっ-----♡♡♡♡♡熱いのがっ、んひっ♡♡♡イク、イクうううっ♡♡♡」

K「うおおっ!!ぐっ!!」

茜「びゅっ、びゅっって飛び出てるうっ♡♡Kの精液っ♡♡あたしの膣内で溢れてっ、広がっ♡♡」



K「はあ〜っ！ねーちゃんありがとっ、学校まで〜来てくれて」

茜「はあ〜っ、はあ〜っ♡♡な〜に言ってるのK♡♡最初に約束してあげたでしょー、いつでもどこでも好きなだけHさせてあげるって♡♡だから〜っ、これからはアテにしていいよ〜っ♡♡」

K「うん〜ねーちゃん〜好きだ〜っ」

茜「んー？平気平気ーっ♡♡あの子鈍感だから気づかないってーっ♡♡それに、こんなに固くなってるKがそんな事
言っても説得かないぞーっ♡♡」

K「うっ、うむっ」

茜「いいからいいからっ♡♡それじゃ、頂きまあ〜っすっ♡♡♡」



茜「ぢゅぱっ♡♡ぢゅぢゅっ♡♡んんっ♡♡ぢゅるるっ♡♡ぢゅっ♡♡ぢゅぢゅっ♡♡」

K「うはあ…っわ!!くら…っわ!!」

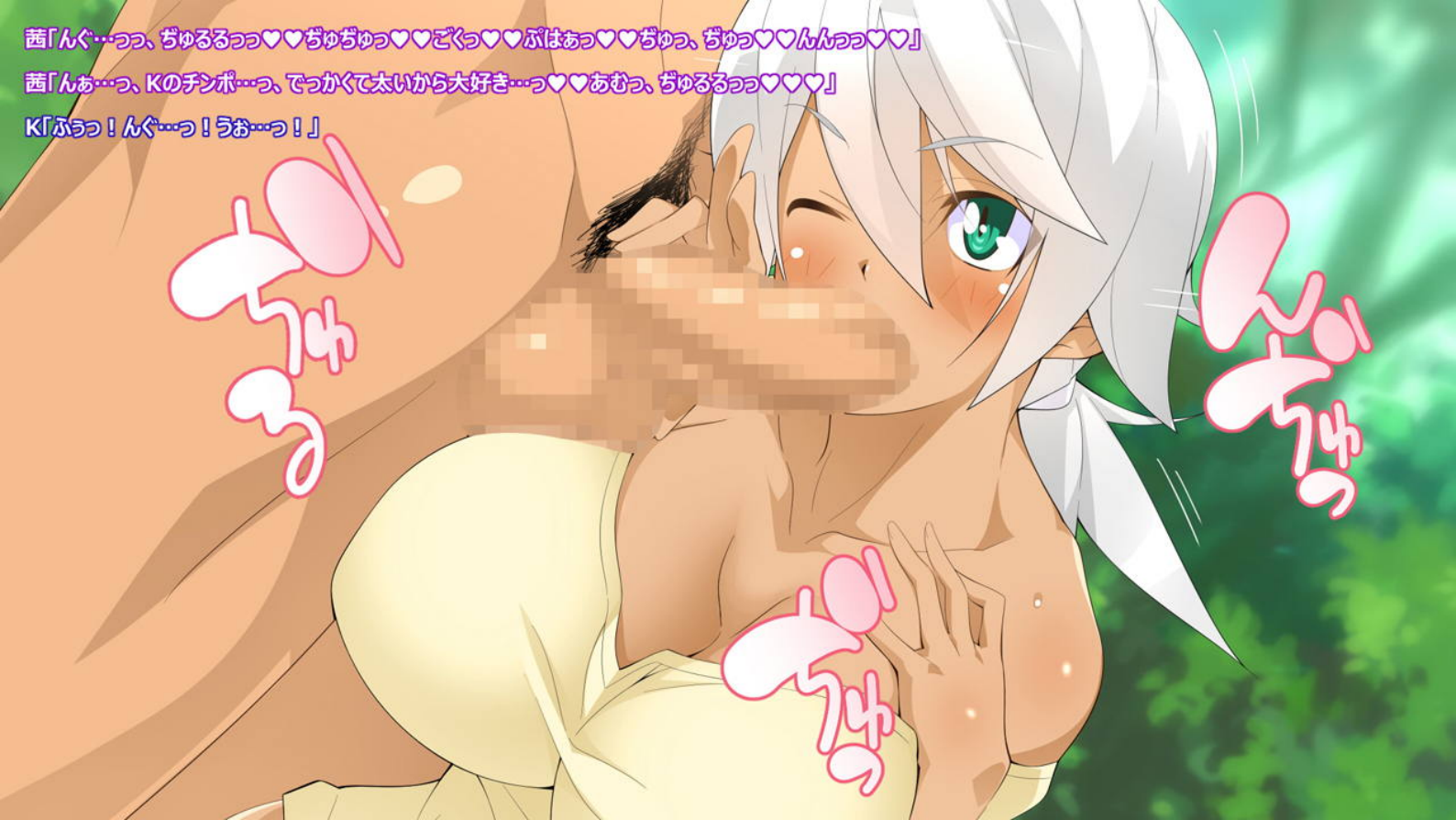
茜「ん…っ、汗のへいか…ひよぼくなっへりゆ…っ♡♡おいひ〜っ♡♡♡」



茜「んぐ…っ、ぢゆるるっ♡ぢゆぢゆ♡ごっ♡ぶはあ♡ぢゆ、ぢゆ♡んんっ♡♡」

茜「んあ…っ、Kのチンポ…っ、でっかくて太いから大好き…っ♡あむっ、ぢゆるるっ♡♡♡」

K「ぶっ！んぐ…っ！うお…っ！」



真琴「くーんっ、大丈夫ですかあー？なんか苦しそうな声でしたんですけど…」

K「え…っ、ああ…平気平気っ！んぐ…っ、ちょっと腹痛いだけだからっ！」

茜「ふあ…っ♡そーそー…、真琴の気を逸らしてね…っ、んふぶっ♡♡」



茜「んっ、んんっ♡♡ぢゆるっ、ぢゅばっ、ぢゅっ♡んぐっ♡♡」

K「あっ、ああ…っ、もう…射精そっ…っ♡♡」

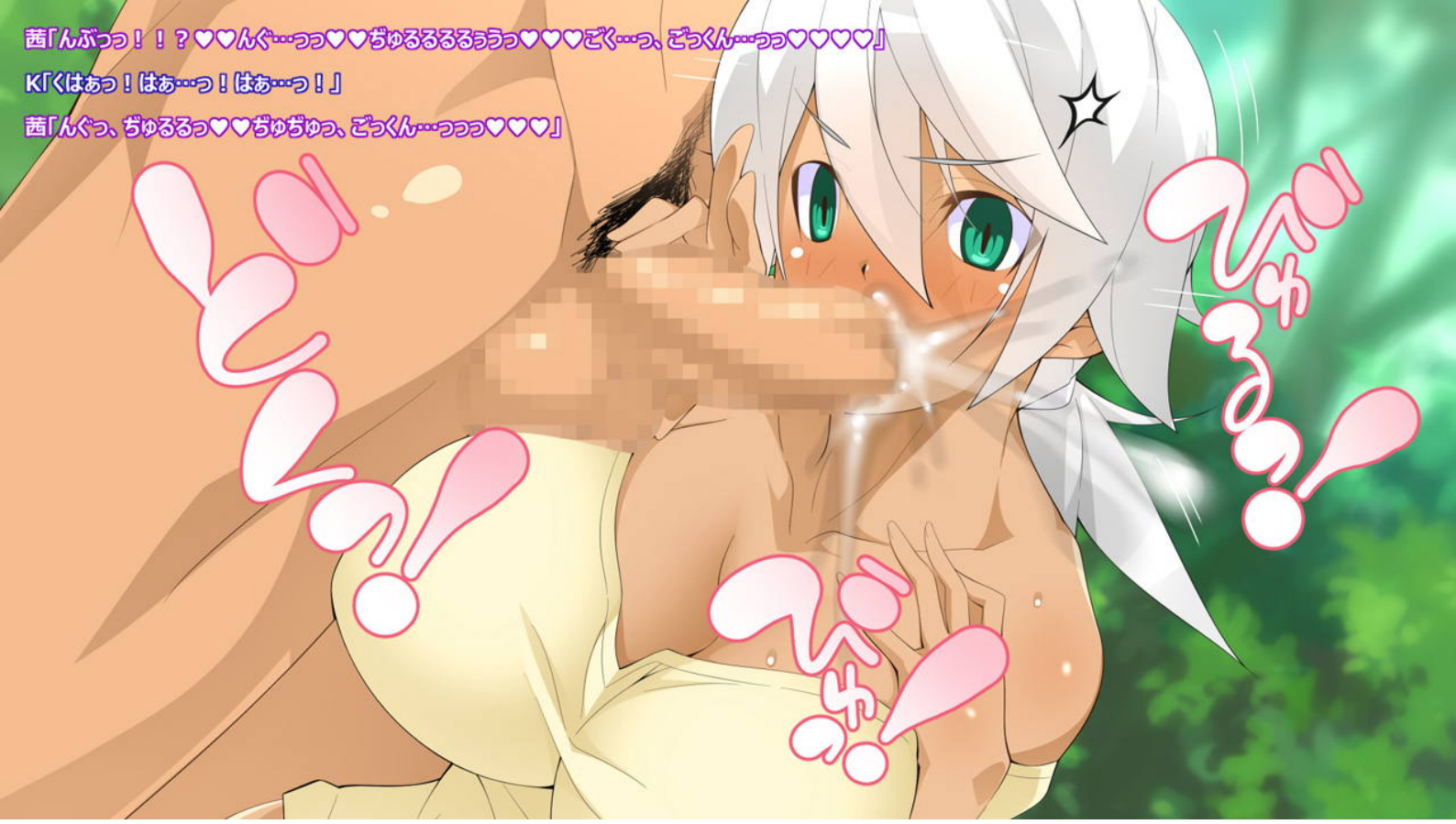
茜「いひから…っ♡♡いふでもイひな…っ♡♡ふえんぶ…っ、飲んだふえる…っ♡♡」



茜「んぱっ!!?♡んぐ…っ♡♡ぢゆるるるらっ♡♡ごっ…っ、ごっくん…っ♡♡♡」

K「くはあっ!はあ…っ!はあ…っ!」

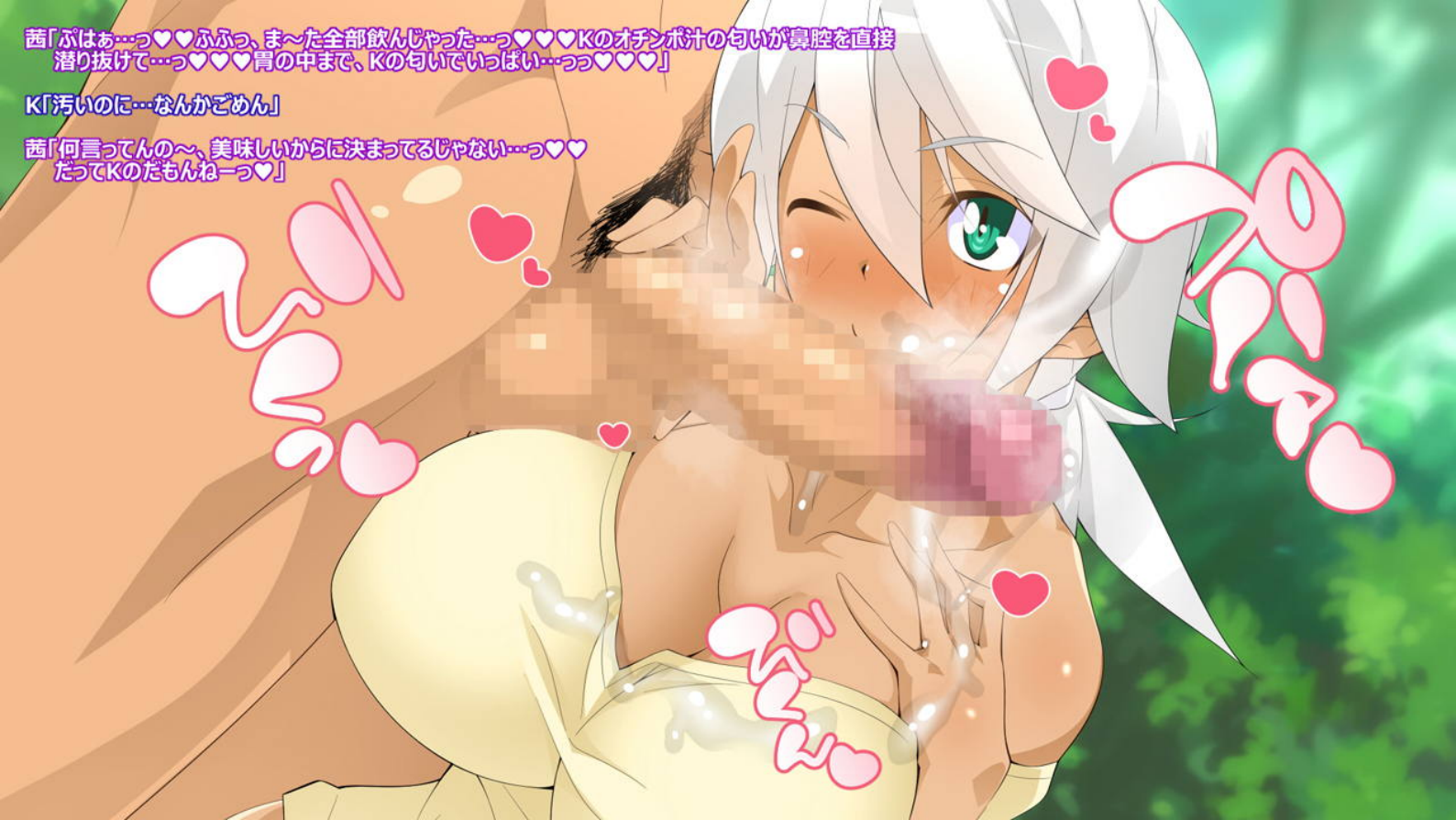
茜「んぐっ、ぢゆるるっ♡♡ぢゅぢゅ、ごっくん…っ♡♡♡」



茜「ぶはあ…っ♡♡ふふっ、ま〜た全部飲んじゃった…っ♡♡♡Kのオチンポ汁の匂いが鼻腔を直接
潜り抜けて…っ♡♡♡胃の中まで、Kの匂いでいっぱい…っ♡♡♡」

K「汚いのになんかごめん」

茜「何言ってるの〜、美味しいからに決まってるじゃない…っ♡♡
だってKのたまもね…っ♡」





西「ほ～らK～、よく見える？♡♡おねーちゃんのおまんこだよ～っ♡♡」

K「さっ、さすがにこれ以上はやばいんでは…」

西「もお～、まーだわかってないの～、Kえ～♡♡…だから、いいんじゃんっ♡♡♡」



茜「とういうの…っ、めっちゃ燃えるっしょ？♥入れるなら、い・ま・の・う・ちっ♥♥うふっ♥♥♥」

K「…どくっ」

茜「ねっ、お姉ちゃんに全部任せていいから～…っ♥♥お願いっ、Kえ♥♥いっぱい気持ちいい事しよっ♥♥」



茜「んおおっ♡♡んひっ♡♡いっ、いきなりすごっ♡♡チンポが一気にっ♡奥まで♡♡んぐっ、んんっ♡♡」

K「オマンコの中…めっちゃ濡れてるっ」

茜「Kのチンポが欲しくて、たまんな…っ、んあっ♡♡…たまんないからだよっ♡♡あっ、あっ、あっ♡♡」



茜「おっ、おっ、おおっ♡♡こんな…っ、青空の下で…っ♡♡んふんふん、Kとセックスしてる…っ♡♡
ホント…っ、自分でも信じられない…っ♡」

K「俺も…っ！」

茜「んっ、Kもそう思う…っ？♡だよな～…っ、んああっ♡♡あっ、あっ♡♡」



K「声抑えないとやばいよ…っ」

茜「んっ♡♡ぶっ、ぶっ～っ♡♡んん～っ♡♡Kのぶっというのが、膣内かき回すからっ♡♡」

茜「(すど…っ♡Kが体重乗せて思い切りねじ込んでくるっ♡こんなの…っ、声我慢出来るわけない…っ♡)」



茜「んっ♡おぶっ♡うっ♡♡ふっ、ぶっ♡♡」

茜「(子供の腕くらい♡ぶっといオチンポ♡あたしのオマンコをっ、どんどん拡張してるっ♡Kのサイズぴったりになっちゃう♡♡K以外じゃもうっ、一生満足出来ないっ♡)」

K「やべ…っ、外でやんの…っ、超気持ちいいっ！」



K「ねっ、ねーちゃんっ！そるそる…っ！」

茜「いいよっ、膣内射精してっ♡♡お姉ちゃんの膣内っ、Kのありたけのザーメンっ、吐き出しちゃってっ♡♡♡」

K「あぁ、イク…っ！」



茜「わっわわわわっ————♡♡♡♡♡イクッ、イクっうううわっ♡♡♡♡♡」

K「ねーちゃん…っ!!うっ…っ!!」

茜「んおおっ♡♡オマンコの中はっ、Kの精液っ、入ってくるううっ♡真琴が一生懸命手入れした畑の中で…っ、Kに膣内射精されてるううっ♡♡」



茜「はあ〜っ、はあ〜っ♡♡えへえ〜っ、ま〜たKにいっぱい射精されちゃったあ〜っ♡
この快感〜っ♡♡やめらんないわあ〜っ♡♡♡」

K「真琴にさすがに悪いかも〜」

茜「気にする事ないって、Kえ〜っ♡♡♡お互いたっぷり気持ちよくなれたんだからあ〜っ♡♡♡
ああ〜っ、幸せ〜っ♡♡♡」



「うん...おっぱい...」

「うん...おっぱい...」

「うん...おっぱい...」



「はあ...っ、Kの馬チンポ...っ♡こんなのがあたしの膣内に何回も入っ...てなん...て...♡♡♡キドキしちやう...っ♡♡♡」
「西...手...直...撫...の...K...の...お...ち...ん...ぽ...を...く...ん...ど...く...ん...脈...打...つ...て...る...の...が...凄...く...
何...も...の...り...ん...ど...く...ん...の...お...ち...ん...ぽ...を...く...ん...ど...く...ん...脈...打...つ...て...る...の...が...凄...く...
「...♡♡♡」

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡



茜「ほっっ、こが気持ち良いんでしょっっ♡大丈夫、Kはそのまま
リラックスしてえっっ、射精する事だけに集中すればいいからっっ♡♡」

K「うおお……っ」
茜「他人の手で扱われるのって気持ちいいっしょっっ♡♡Kの弱さには
もう全部わかってんだからねっっ♡♡♡」



茜「…っで話っ、Kも…っ、まだ覚えてる…っ？♡♡んっ、んんっ♡♡あっ、んあっ♡♡」

K「うん…あの時の光景…目に焼き付いてる」

茜「そんなKが今は逆にあたしを…っっ、あっ、あっ♡♡んんっ、あっ、あっ♡♡リードしちゃってんだもん…っ♡♡」



茜「ああ…っ、いい…っ♡♡Kとセックスするの…ホント好き…っ♡♡Kが魔男で…っ、本当に良かった…っ♡♡♡
こんな風に…っ♡♡一緒に気持ちよくなるんだから…っ♡♡」

K「ねーちゃん…っ、俺も」

茜「うん…っ、ありがと…っ、Kえっ♡♡♡」



茜「んっ♡♡あっ、あっ、あっ♡♡ぎゅっ、急に激しくっ♡♡んっ♡♡駄目っ♡♡大きな声っ、出せないのになっ♡♡♡
抑えられないっ♡♡止まんないっ♡♡♡」

K「ねーちゃん…好きっ！」

茜「Kっ♡♡あっ、あっ♡♡♡Kっ♡♡♡」



K「また射精すよ…っ！ねーちゃん…膈内射精してって言って」

茜「んうっ♡♡あっ、あっ♡♡んあっ♡♡オマンコ射精してっ♡♡お姉ちゃんの膈内には、あたしの子宮には、
Kの赤ちゃんミルクっ、チンポザーメンっ♡♡ありっだけ注いでえっ♡♡」

K「はあっ、はあっ！！うっ！！」



茜「はあ〜…っ♡♡はあ〜…っ♡♡♡Kえ…っ、大好きだよ…っ♡♡♡」

K「ねーちゃん…っ、ありがと…っ！」

茜「もお一生…っ、Kえから離れないんだから…っ♡♡♡Kのためなら…っ、なんだってしてあげる…っ♡♡♡どんな事だって…っ♡♡
お姉ちゃんの身体は…っ、これからもずっとK専用だよ…っ♡♡♡」



犬養「確かこくやつてえっつ♡…ほら出来たあっ♡♡うふふっ、K君のおちんちんがあっつ、お姉さんの大きくて柔らかいおっぱいの中に♡♡♡はいっつちやっつめなのっ、わかるっ？♡♡♡」

K「うめあ…っ、あつたかへて…♡♡♡気持ちすっ♡♡♡」

犬養「あはっ、そっでしよっ♡♡♡それじゃあさっそく…おちんちん抜いてあげるからねっ♡♡♡」



犬養「ふっふーっ♡♡当然でしょーっ、胸の大きさは自信あんだから♡♡
もおいキそう？♡おちんちんからあの白いのがつっぴゅひゅってしちゃら
そう？♡♡いっつも好きな時に発射してねっ♡♡」

K「で…っ、でも…それじゃあ犬養さんが…っ」

犬養「汚れても気にしないってえっ♡♡むしろっ、たあ…っくさん射精してっ♡
K君のチンポ汁で、お姉さんをいっぱい汚してえっ♡♡」



犬養「すっごおっすいっす、この量…そしてこのおせがえるまじな精液臭…っ
とても、並の人間の射精とは比べ物にならないわあ…っ♡♡♡これで
膣内射精なんかされたら…はあ…っ♡♡♡」

K「はあ…っ、はあ…っ、犬養さんのパイシリが…凄いい気持ちよかつたんで…っ」

犬養「んふふっ♡ありがとーっ、K君っ♡♡私も、K君がこんなにいっぱい
射精してくれてっ、嬉しかったよっ♡♡」



犬養「んはあ……っっっ♥♥奥まで…入っちゃったあ…っっ♥♥K君わかる…っ？あなたのおちんちんが私の
膣内に…っ、すっぽり入っちゃってるんだよ…っ♥♥」

K「わかります…っ、ああ…っ、やべ…っ、もう気持ち良い…っ！」

犬養「うふふ…っ♥♥気持ちよくなるのはまだまだこれから～だよっ♥♥それじゃ…、動くな…っ♥♥」



犬養「んっ、んんっ、あぁっ♡♡はぁっ、はぁっ♡♡ふっ、ぶっ♡♡んっ、んん…っ♡♡」

K「はぁっ、はぁっ、おっぱいが…目の前でプルプル…っ！」

犬養「あぁっ、これ凄いい♡♡ホントヤバいやつだわ…っ♡オチンポ太すぎて…っ、膣内が広がっちゃう…っ♡♡」



犬養「あつ、あぁっ♡♡K君のチンポっ♡♡腰を動かす度にっ、奥にっ♡♡当たるう…っ♡こんな…っ、絶対他じゃ味わえない…っ♡♡魔男チンポっ、デカすぎる…っ♡♡」

犬養「ふうっ♡んんっ♡♡あぁっ♡♡こんなっ、痛み付きになるに決まっでんじゃん…っ♡♡」

K「うう…っ！腰使い…半端ない…っ！！」



犬養「ねえっ♡♡これからも絶対私とHしよっ♡♡K君といっぱい気持ち良い事したいっ♡♡んあっ♡♡
バイスリでも膣内射精でもなんでもいいから…っ♡♡私とセックスしてえっ♡♡」

K「はあっ、はあっ！じゃっ、じゃあ…そのまま…っ！」

犬養「もちろんっ♡♡遠慮しないでっ、魔男K君がたっぷり溜めた精液っ、いっぱい、いっぱい私の膣内に
吐き出してっ♡♡責任はこっちが取るからあっ♡♡ねっ、ねっ♡♡」



犬養「あっ、イクイクっ♡♡私もいつちゃうっ♡♡6歳も年下のK君チンポにイカされてっ、思い切り
絶頂迎えちゃうっ♡♡」

K「あっ、あっ！！射精るっ！！」

犬養「きてきてえっ♡♡頂戴っ、膣内に精液っ、射精してえっ♡♡イクっ、イクっ♡♡」



犬養「ひらっ♡♡♡んおおっ♡♡♡あぁ、あぁ、あーっ♡♡♡♡♡♡♡」

犬養「(膈内でっ、膈内で精液がはじけてるっ♡♡熱いザーメンがっ、どくどくって膈内で噴き出して溢れてくるっ♡♡♡私っ、完全に下半身で考えちゃってるっ♡♡♡)」

K「ぐ…っ!! うう…っ!! はぁ、はぁ!!」



犬養「はあ…っ、ふう…っ、はあ…っ♡♡♡K君の精液…っ、たっくん…膈内に射精たよ…っ♡♡♡
君のまだ固いままのおちんちんが…びくびくってザーメンの残りを吐き出してるの…っ、わかるう…っ♡♡♡」

K「犬養さんの膈内が気持ちよくて…っ、自分でも信じられないくらい…射精しました…っ、はあっ、はあっ」

犬養「んん…っ、ありがと…っ♡♡私のオマンコでちゃんと気持ちよくなって…っ、私も嬉しいよ…っ♡♡
また次も絶対Hしよっ♡♡予定空けとくからさ…っ、ねっ♡♡」

はあ…っ♡♡

はあ…っ♡♡



K「うお……っ」

犬養「え…っ、やだちょっと…っ、もしかして私の身体、そんなにおかしい…っ!？」

K「いや…むしろ逆…すごいスタイル良くて…漫画みたい」



犬養「そうなんだ…あっ、ありがと…K君。褒めてくれて…」

K「(肌も透き通るくらい白くて綺麗だ…、色白美人って犬養さんみたいな人の事を言うんだな)」

K「でも」



K「犬養さん、ひょっとして…回=プの下っていつも裸？」

犬養「えっ！？いや、あのこれほどの…っ！！つい…っ、習慣になっちゃってて…ほらっ、私…っ、普段犬だから…」

K「ああ～、なるほど…暑いんスね」



犬養「あと抜け毛も大変で…だから決してっ！巷に出没するっていう、変態趣味の人じゃないからっ！」

K「わかってますよ(実際に見た事ありそうな反応だ)」

犬養「ああいうのとは絶対違うんだから…うん、違う…」



犬養「ああ〜っ、どうしよっ、すっごく緊張するうっっ♡♡今更凄く恥ずかしくなってきたあ〜っ♡♡」

K「どうします？ やっぱ止める？」

犬養「えっ！？♡〜うっ、う〜んっ♡♡じゃっ、じゃあ〜いいよ〜K君の好きにっ♡♡」

犬養「せっかくここまで来たんだから〜気持ちよくなないと〜損しちゃうもんね♡♡」



K「すごっ…。あらためて見ても…でかい…。やっぱり自慢することはある」

犬養「あ、あれは酔ったはずみで言っちゃっただけだから…っ、ホントは大きいのがいつも恥ずかしくて…っ♡
だっ、だからあまりマジマジと見ないで…っ♡♡」

K「ん～…でもとても綺麗だから…」



犬養「そっ、そんな事...ないわよ...っ♡♡ただ無駄におつきいだけ...だもの...っ♡♡K君は優しいから...っ♡♡」

K「それじゃあ...その...触っちゃっても...いい？」

犬養「うっ、うん.....、べっ、別に...好きにして...いいわよ...っ♡♡(ああ〜っ、ドキドキするう〜っ！♡♡)」



犬養「ふうっ、んんっ♡♡やあっ♡♡そっ、そんな風に揉んじゃっ♡♡んっ、んんっ♡♡」

K「うっわ、柔らかっっ！肌がスバスバで…モテモテ…、その上…ずっしり重いっっ！」

犬養「んんっ、あっ…♡はあっ、はあっ♡♡あふっ♡んあっ♡♡」



犬養「(やば…っ♡超気持ちいい…っ♡♡なっ、なんで…っ! ?♡♡K君におっぱい揉まれてるだけなのに…っ♡
身体が敏感に反応しちゃって…っ♡♡)」

K「犬養さんの声、めちゃ正しい」

犬養「ちっ、違…っ♡♡これはただ反射的に…っ♡♡」



K「あむっ、ちゅるるっ！！ちゅぼっ！ちゅちゅっ！」

犬養「つつつつつ-----！！？♡♡♡♡だっ、駄目えっ、けっ、K君っ、そんな吸っちゃ…っ、んああっ♡♡♡」

K「ちゅちゅっ！ちゅぼっ！」

犬養「(あたしのおっぱい、吸われてるっ♡♡けっ、K君がまるで赤ちゃんみたいに乳首に吸い付いて…っ♡♡)」



犬養「あっ、あぁ、あぁっ♡♡んっ♡♡んっ、んんっ♡♡駄目っ、ちっ、乳首噛んじゃ…っ♡んんっうっ♡♡」

K「ぢゅぱっ！ぢゅぢゅっ！！れるれる…っ！…うまっ」

犬養「やっ、あぁっ♡♡はぁっ、はぁっ♡♡んあぁっ♡♡♡♡」



犬養「はあ〜っ♡♡はあ〜っ♡♡(どっ、どうしょ〜おっぱい舐られただけで〜イキそうになっちゃったあ〜っ♡♡)」

K「犬養さん…その…俺もうたまんないんで…出来れば…」

犬養「ん…っ?♡♡ああ〜、そういう事ねっ♡♡もちろん…いいわよ…っ♡♡でも経験ないから…あんまり期待はしないでねっ♡♡」



犬養「んっ、んしよっ♡えと…どっ、どうかな…これで…」

K「大丈夫ですよ…十分気持ちいいです…」

犬養「そっ、そおっ、良かったお…ごめんね、あんまりよくわかんなくて…っ♡♡!」

K「(犬養さん、酔ってる時とは大違いだな…なんか初々しいっていうか…でも…そこがまたすごく可愛い)」



犬養「んふふ…っ、これ…結構楽しいね♡あたしがやらなくてもK君が動いてくれるから…へえ～…、
パイズリってこういうのもあるんだあ…」

犬養「K君の回くなったオチンチンが、あたしのおっぱいの中を出たり入ったりして…」

K「犬養さんくらい大きくないと、こういうのって出来ないらしいス」



犬養「うん…っ、ありがとっ♡でもなかなか…考えたものよね、パイズリって♡おっぱいだけで…オチンチンを
気持ちよく出来ちゃえるんだからさ…っ♡」

犬養「まっ最初に考えた人もK君みたいにおっぱいバカだったんじゃないかな？♡なんてね、ふふ♡♡」

K「否定は…しないツズね…多分そうだと思いますよ」

犬養「認めちゃうんだ、そこ」



犬養「あっ、おっつ、だんだん…動きが強くなってきたね…♡K君、気持ちいい？」

K「ええ…そりゃ…犬養さんのおっぱいを犯してる…様なものだし」

犬養「ああ、そっかあ～♡そう考えれば確かにそうよね…っ、K君のギンギンオチンポに…あたしのおっぱい…好きにされちゃってる…っ♡」



犬養「(なんだろ...そう考えたらなんだかあたしも凄く変な気持ちになってきちゃう...っ♡ただK君のオチンチンを胸の谷間に擦りつけられてるだけなのに...っ♡)」

犬養「(これもK君が魔男なせい...?それとも...っ♡♡)」

犬養「うん...多分きつと両方ね...っ♡だってK君...こんなに必死になっちゃって...可愛いんだものっ♡♡)」



犬養「あぁ、んんっ、ふっ♡♡さっきよりもっと激しくなった…っ♡♡んっ、はあっ♡♡」

K「はあっ、はあっ、ああ…っ！もうイキそう…っ！！そのまま射精して…いいですかっ！」

犬養「いいよ…っ、思い切りぶちまけて…っ♡♡K君の熱い迸りを…っ♡♡あっあつあつドロドロのチンポ
ゲーメンっ、私にぶっかけて頂戴♡♡」



「ぐっっ、うっっ!!」

犬養「ひゃあっ♡♡いっば、いっばい射精たあっ♡♡すごっ、んんっ♡♡♡飛び跳ねてるっ♡♡」

犬養「おっぱいの中でおちんちんが何度もびくびくっ♡♡ほらほらっ、最後の一滴まで…っ♡♡吐き出してえっ♡♡」



犬養「あは〜…っ♡♡もおハツトバトお…っ♡♡背中らまで精液が垂れちゃって…っ♡♡」

K「すっ、すみません…愛ありすぎて…汚しちゃいました」

犬養「いいのよ〜、これくらい♡♡それよりも…っ、私のおっぱいでこんなに気持ちよくなってくれたんだから…っ♡
ありがと…っ、K言…っ♡♡よければまた次も使ってあげてね…っ♡♡」



茜「もしもし？電波悪いのかな、よく聞こえないんだけどー？家に…なんだったー？」

犬養「…K君っ、このままじゃ…っ、あっ、茜に気づかれちゃう…っ♡♡」

K「…うん、わかってやってる。バレないように頑張って」

犬養「ええ〜っ♡♡もっ、もっ〜っ♡♡」



犬養「いっ、今ね…っ、K君が家に来てて…」

茜「あ～、そうなんだ～、で、Kと二人で何してんの？」

犬養「んひっ♡えっ、えと…勉強おっ♡んっ、んんっ♡ひっ、ひっ…っ♡♡」

K「(う…っ、さっきから犬養さんの膣内がぎゅーぎゅー締まって気持ちがいい…っ)」



犬養「んあっ♡♡あっ、あっ♡んぐっ♡だっ、駄目っ♡♡こっ、声…っ、抑えられない…っ♡
聞こえるっ、聞こえちゃうっ♡♡」

茜「もしもし、犬養ってばー。家にいるんなら今からそっちにいこっか？」

犬養「駄目っ、絶対駄目えっ♡♡こっ、こんなはしたないとこ…っ、見られたくない…からあっ♡♡」



K「犬養さん、すっげー可愛い…もっと突ぐな」

犬養「んひっ♡♡あっ、あっ、あーっ♡♡ズンズン来るうっ♡♡奥までっ、オチンポ届くうっ♡♡
固い先っぽがゴリゴリって敏感なとこ叩くのおっ♡♡」

K「多分…もうこれ絶対ねーちゃんに聞こえてるな…」

犬養「げっ、k君が動くからよおっ♡♡」

おっぱい

おっぱい

おっぱい

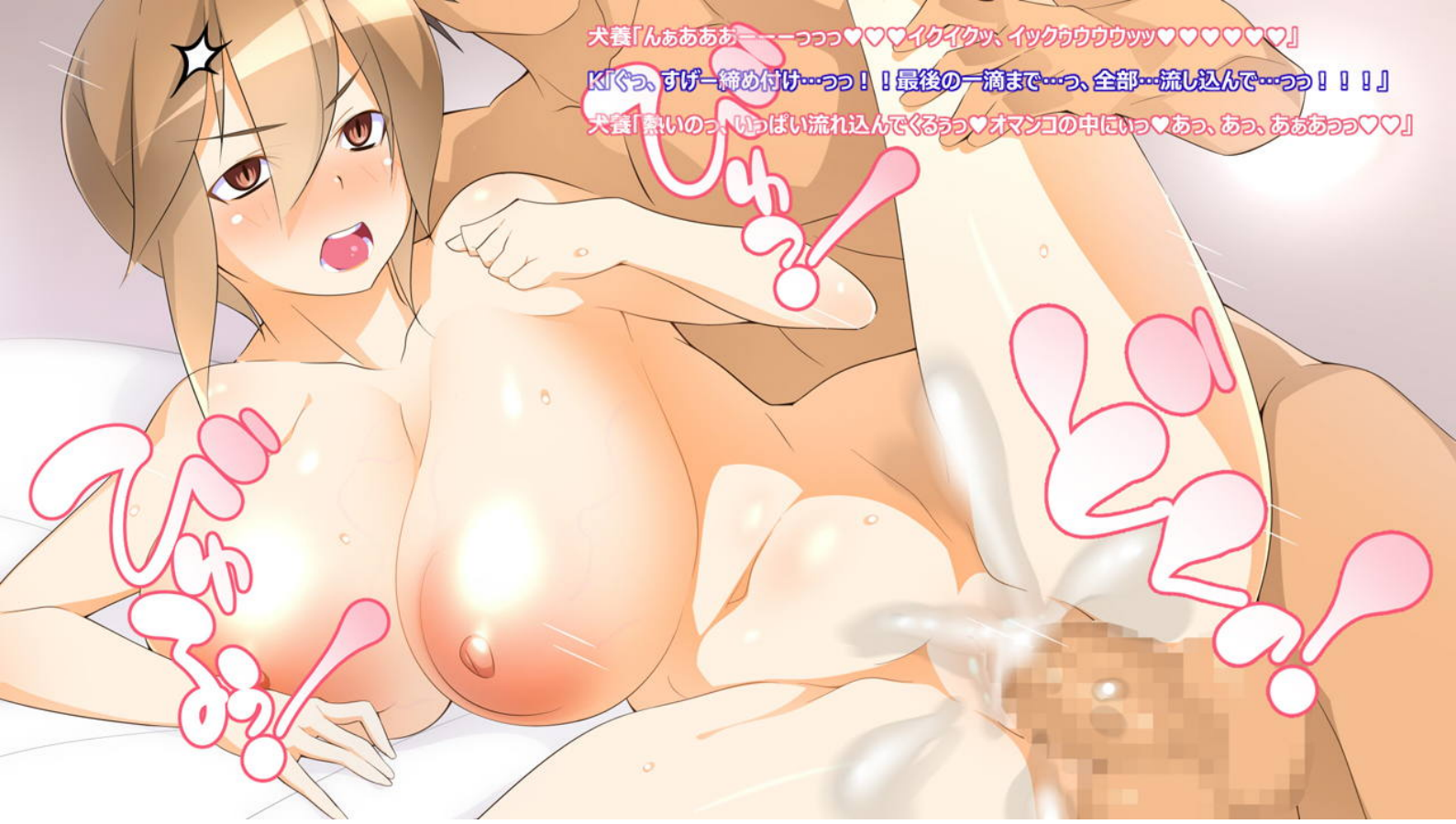


犬養「あっ、あっ、駄目っ♡♡イクっ、このままイクっ♡」

茜「えっ、犬養の方が来んの？ケニアまで？」

犬養「イクイクっ♡♡ああ…っっ♡♡」

K「ああ…俺も…射精るっ！」



犬養「んあああーっっ♡♡♡イクイクッ、イックウウウッ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

K「ぐっ、すげー締め付けっっ!!最後の一滴までっっ、全部っっ流し込んでっっ!!!」

犬養「熱いのっ、いっぱい流れ込んでくるっ♡オマンコの中はっ♡あっ、あっ、ああっ♡♡♡」



茜「...あははっ♡♡犬養の気持ち良さそうな声がかちまではっきり聞こえたよーっ♡どう、犬養？
いつもよりもっと興奮出来たっしょー？」

K「...やっぱり。ねーちゃん、最初から気づいてたな」

犬養「はあ〜っ、はあ〜っ♡♡あつ、茜え〜っ、おつ、覚えておきなさいよお〜っ♡♡♡」

あははっ♡♡

あははっ♡♡

あははっ♡♡

あははっ♡♡



茜「じゃーんっ、お待たせっ♡この日のためにわざわざ新調した水着で〜っす♡どう、K? 似合ってるかなー?♡♡」

K「うわーっ、…すげ。グラドル顔負けだな」

犬養「うっ、うう〜、やっぱり男の人に身体見られるの…慣れてないからちょっと恥ずかしいわ♡」



茜「なーに言ってんの犬養♡あたし達は、Kに喜んでもらうためにわざわざここにいるんだよー♡なんのために、際どい
ビキニにしたと思ってるのー♡もっど胸張って♡♡」

犬養「まあ…それはそうんだけど…っ♡あ〜っ、でもやっぱり…っっ♡♡」

K「犬養さんのそういうところにグツとくるな」



K「(でか...これ、水着...か? 乳首もスケスケじゃん...)」



犬養「(見てる見てる〜っつ、K君こっち超見てる〜っ♡♡うろ〜っ♡)」

K「あの…これ普通の水着じゃないスよね？」

犬養「えっ！？あ…うんっ♡茜がさ…その…っ、合う水着が見つからないっていうもんだから…
私が海外のサイトで探して…それで…」



K「なるほど…それでエロ水着をって事か」

犬養「わっ、私は最後まで反対したからねっ♡自分の意思じゃないからっ♡茜がどーしてもって
言って聞かなくて…しかたなく」

K「(その割にはバッチリ合ってるよなあ…)」



茜「ええ〜っ、最後は犬養も結構ノリだったじゃん〜っ♡全部あたしのせいにするっ〜?♡
でも買って絶対良かったじゃん、ねえK?」

K「うん、ねーちゃんもエロくっすぎてーやばい」

茜「あははっ♡あーりがとっ♡高かったけど選んだ甲斐があったよ〜っ♡」



茜「それじゃー今日はいつもよりうんとお姉ちゃんがサービスしたげよ〜っ♡犬養も一緒にねっ♡」

犬養「えっ!? ちよ、茜っ!」

茜「今更何戸感ってんの〜っ、ここに来る前からそんな事承知の上っしょ〜っ♡♡」



犬養「わっ、私は別に…楽しく遊んでお酒飲めればって…」

茜「あははっ、そんなカッコして全然説得力ないよ〜♡」

犬養「あっ、く…っ♡♡」



茜「Kもわかるっしょ〜?♡見てよこの犬養のエロボディ〜っ♡♡こんな可愛い顔してすごいでしょから腹立つよね〜♡♡」

犬養「そっ、それはあんたがこんなエロ水着にするから…っ♡」

茜「せっかくそんな身体に生まれたんだから、有効活用しなくっちゃ♡ねえ、K♡」

K「うん、ごもっともだ」



犬養「そっ、そうなのかなあ…♡♡そっよね…♡♡うん…ちょっと自信出できた…っ♡♡せっかく着替えたんだもん♡
よ〜しっ、楽しまなくちゃ損よね♡」

茜「そっ、今日は3人で思い切り楽しんじゃおーっ♡♡」

3人「おーっ!!」



茜「んほっ♥♥んんっ、あっ、あぁっ♥♥いいよっ、Kえっ♥♥あひっ♥♥お姉ちゃんっ、
気持ちいいよっ♥♥んっ、んんっ♥♥」

K「ねーちゃんのマンコ…っ、締まるう…っ！」

犬養「んくっ、んくっ♪ぷは〜っ♥♥おほーっ、K君最初からいきなりがっつくねーっ♥♥」



K「バカンス楽しむんじや…っ、なかったっけ？」

茜「んひっ♡わかってないなあ、Kえ〜っ♡♡これが夫人のバカンスってヤツよ〜っ♡♡
んっ、んっ、んあっ♡♡♡
こんな誰もいないとこで男女3人とか…っ、やる事決まってるじゃんっ♡♡！」

K「そういうもんなの…っ、ぐっ！」



茜「ほしてもっ♡んっ、ぶっ♡♡パワーあるよねっ♡腰ごとっ♡持っていかれちゃってるっ♡
あたしっ、まるでっ♡♡んっ♡Kに食べられてるみたいっ♡」

K「ぶっっ、ぶっっ！」

茜「(…っでもう聞こえてないかっ♡んぶっ♡♡腰動かすことで頭がいっぱいになっちゃって♡)」



茜「んおおっ♡♡奥っ、ズンズン来るうっっ♡♡おっ、おお〜っっ♡♡これいい♡♡
いいよっ、Kえっ♡♡Kの回くて
太いオチンチンがっ、あたしのっ♡♡一番気持ち良いとこ叩くよおっ♡♡」

茜「あっ、あっ、あーっ♡♡Kえチンポいいっ♡♡最高おっっ♡♡♡」

犬養「あーんっ、茜だけすっごく気持ち良さそうにしてずるーい♡K君っ、次は絶対私ねっ♡♡」



K「全くもう…二人揃ってエロいなあ！」

茜「だってえっ♡♡こんなチンポ味わっちゃったら、誰だって夢中になるよおっ♡♡あしだって、
犬養だっけえっ♡♡♡
Kのオチンチンに一生捧げちゃうっ♡♡」

茜「残りの人生、魔女とか魔男だとか関係なく♡♡Kにっ、Kだけのためにっ♡♡♡」



K「ねーちゃんっ！イク…っ、犬養さんの見てる前でっ！」

茜「きてっ、きてえっ♡♡お姉ちゃんがK専用の性処理オマンコって事っ、犬養にも証明してあげてえっ♡♡イクイクっ、あたしもイクううっっ♡♡♡」

K「ああ…っ！射精るっ！」



K「はあ〜っ、はあ〜っ」

茜「んあ〜っ、はあ〜……っっ♡あたしもよ〜っ、Kえ〜っっ♡♡あなたの射精した精液が
お腹いっぱい満たされて〜っ、
すっごく満足してる〜っ♡幸せって感じるんだよ〜っ♡♡」

茜「んあ〜っ、Kえ〜っ、大好き〜っ♡犬養が終わったらまた次はあたしとやるーね〜っ♡♡」



犬養「んん……っ、はっ、入ってくるぅ〜……っっ♡♡けっ、K君の……っ、オチンポお……っっ♡♡見える……っ？
私の膣内に入ってくるの、K君から見えるぅ……っ？♡♡」

K「うん……めっちゃ見てる」

犬養「んく……っ♡♡あぁっ♡♡私の気持ちいいとこ……っ、K君のオチンポで全部埋められちゃう……っ♡♡」



犬養「(あ〜、ダメだし…っ♡また流されちゃってる…っ♡もうオマンコの事しか考えられなくなってる…っ♡
こんなはずじゃなかったんだけどな〜、私の人生設計…っ♡でも…っ♡)」

K「犬飼さんのおっぱい、プルンプルンしてる」

犬養「えっ！あ…っ、うっ、うんっ♡(ああ〜、もうキドキが止まらないっ♡体中が…乳首の先まで敏感に
なってるみたいっ♡)」



犬養「じゃ、じゃあ…つ、また…私が動くね…っ♡♡ん…つ、んん…っ♡♡すご…っ♡そんな太くて自いのが…つ、私の膣内に…っつ、んあっ♡♡」

犬養「まるで、何か別の生き物が何か入れられてるみたい…っ♡♡びくびくって動いて、うねうねして…っ♡♡んんっ♡♡」

茜「あはは、それわかるわー♡♡まるで生きてるみたいに、膣内で蠢いてくるんだよねー♡♡」



犬養「そっ、こんなチンポでガチピストンとかされたら…っ♡♡正気でいられる自信、絶対無いよ…っ♡ずるいよっ、
K君ってば…っ、可愛い顔して…っ、こんな凶悪な兵器…っ、隠し持ってるんたもの…っ♡♡」

K「それは犬養さんだって同じ…っ、めっちゃエロいもん」

犬養「そっ、そんな事言っ…っ♡♡んんっ♡♡気持ちいい…っ♡♡」



犬養「善の言ってる事っ、凄くわかる…っ♥入れてみて…っ、初めてわかる…っ♥♥これまでの世界が…っ、全部ひっくり返っちゃつらいの…っ♥♥んおっっ♥♥革命的快感っ♥♥♥」

犬養「はぁ、はぁ♥♥駄目っ、腰もう止まんない…っ♥♥下半身が勝手にK君チンポ求めてるっ♥♥身体があなたのオチンチン求めてるっ♥♥あぁ、あぁ、あぁっ♥♥♥」



K「はぁっ、はぁっ、犬養さん…っ！そろそろっ」

犬養「K君イクのねっ、いいよっ♡♡このまま射精してっ♡♡私の中にっ♡♡遠慮なんかいいからっ♡♡
あなたのどひつきり濃くて熱い精液っ♡♡思いきりぶちまけてえっ♡♡」

犬養「私もイクっ、んんっ♡♡イクっ、イクっ♡♡♡K君チンポに膣内射精されてっ、オマンコイクっ♡♡」



犬養「ツツツツツ-----♡♡♡♡♡んおっ、おお-----っっ♡♡♡♡♡」

K「はあ、はあ!!」

犬養「射精てるっ、射精てるっ♡♡♡K君のオチンポミルクっ♡♡♡マグマみたいに熱くてヤケドしそう
精液が、私の子宮に♡♡♡赤ちゃん作るお部屋に注ぎ込まれてるっ♡♡♡」



犬養「んっっっ…、はぁ~~~~っっ♡♡はぁ…っ、はぁ…っ♡♡♡K君…っ、いっぱい射精して…くれたね…っ♡♡
私のオマシコで気持ちよくなって…っ、本当にありがとう…っ♡♡♡」

K「俺だって…気持ちよかったよ」

犬養「んふふ…っ、嬉しい…っ♡あぁもう…っ、私もますますK君に夢中になっちゃいそう…っ♡♡」



「……」

大森「あははっ♡見てよ西っ、あのK君がこんなに反応するなんて初めて見たっ♡」

茜「でしょー♡K、あなたなら絶対喜ぶと思ったよー♡おっぱい大好き人間だもんねーKは♡」



茜「二人がかりで〜ヤ〜っておはなすの〜」
「おっぱいおっぱい〜」
「おっぱいおっぱい〜」

大義「息を吐かせて〜っ、ダイニング良く扱く〜っとおっぱいバカだね〜、
これ最初に思ってた人〜っ、おっぱいおっぱい〜、おっぱいおっぱい〜、
おっぱいの事しか頭がない人だっただんならうね〜」

「〜っ、おっぱいおっぱい〜」



犬養「今更否定したって遅いよ、K君♡♡キミがかなり相当なおっぱい
中書者だつて事♡♡どうくは八してるんだから♡♡ねえ、茜♡♡」
茜「そ、だから遠慮しないで今はおっぱいの事にだけ集中して、気持ち
よくなつてよK♡♡最後までしっかり扱いてあげるからさ♡♡」
犬養「んしょっ、んしょっ♡♡K君だけの、私達の特別サ〜ビス♡♡たっぷり
受け取つて頂戴♡♡」



茜「んっ、よっっ、ほっっ♡大層ほっっ、中々上手い…じゃんっ♡♡Kのちゃんっ、
泳がせなからっ♡」
大層「ほっっ♡かなり手馴れたるぢやないの…っ♡♡今までこれだけ
K着せさせてっ♡…っ♡あずなのみっ♡♡んっ♡♡」
茜「んっ♡♡嬉しゅう♡♡…っ♡♡」
大層「んっ♡♡…っ♡♡」



「あーっ、わかってるって♡♡さっかからKのオチンチンが射精したくて
うずうずしてんじょ♡♡このまま盛大にイっちゃいなーっ♡♡」
犬養「好きなタイミングで射精していいよーっ♡♡K君のくっさいオチンチン
ザーメンっ、あたし達で全部受け止めてあげるっ♡♡」
二人ほらほらっ、いっすやえーっ♡♡♡♡



犬養「んく…、んん〜っ♡」

茜「ふふ〜ん♡」

K「ふむ…」

犬養「あの…K君、その…じっと思つめてないで…早くなんとかしてよ」



K「いや…もうちょっとそのまま見ていたいな…って。こんな絵面、二度と
拝めないかも」

茜「あれ犬養～、もしかして素面に戻っちゃった～？んふふっ、今更
恥ずがしくなってるの？」

犬養「なっ、なんていうかさ…そうやって二人してK君にお尻向けで並んでる
のって…まるで催促してるみたいでちょっと…恥ずがしくて♡」

茜「やばははっ♡みたい～じゃなくて実際に今やってるじゃん、ねえK♡犬養だってさ、
まだまだしたいっしょ？ だったら思い切りパーツとやっちゃえほ♡」

犬養「あっ、あんたはいつだって…」

K「…んじや、もう入れるよ。犬養さん先いぐね」





犬養「えっ、あっ、ちよっ!!？」

犬養「つつつ~~~~♡♡♡んひっ♡♡♡んおっ♡♡♡んっ♡♡♡あっ、あっ、ああっ♡♡♡」

茜「うは~~~~、今すごい声出たよ~♡犬養エロすぎ~♡♡」

犬養「きゅっ、急にK君がっ、んいっ♡♡いっ、入れてくるからっ♡♡んああっ♡♡あっ♡」

K「犬養さんの膣内、締まる…っ！」

犬養「Kっ、K君のオチンポが…っ、ぶっ、太すぎるからあっ♡♡んんっ、あっ♡おっ、奥に当たるっ♡♡」

茜「んふふ…っ、犬養のエロ顔…っ、こんな間近で見られるなんてっ♡」

犬養「んあぁっ♡♡あっ、茜っ♡♡あんたっ、悪趣味すぎっ♡♡んおっっ♡♡」

あ
ん
ふ
ふ

あ
ん
ふ
ふ

あ
ん
ふ
ふ



犬養「んっ、おおっ♡♡あっ、あっ、あぁっ♡♡」

茜「ほらほら～♡気持ち良さそうなお声出てるよー、犬養っ♡Kのおチンポでゴツゴツぶっ叩かれてるんだよね…っ♡
いちばん敏感な膣内の奥をさっ♡♡」

犬養「う…っ、るっさい♡♡んおっ♡♡それどころじゃ…ないからあっ♡♡んっ、んんっ♡♡チンポ気持ちいい♡♡」

K「ねーちゃんの隣で犬養さん犯すの…っ、超気持ちいい…っ！」



茜「ねっ、興奮するでしょーっ♡あたしもこうやって見てるだけでぞくぞくしてきちゃう…っ♡♡」

犬養「はあーっ、はあーっ♡♡んっ、あっ、あっ、ああっ♡♡♡」

茜「…ふふっ、もう言葉にもならないみたいだねっ♡♡そろそろイキそうかなーっ？♡♡」



犬養「イクっ、イクっっ♡♡♡茜えっ♡♡あたしっ、イっちゃうっ♡♡♡K君のオチンポでっ、
あんたの目の前でっ、膣内射精されてイっちゃうっ♡♡♡」

茜「いいよー、派手にイっちゃいなっ♡♡あたしがちゃんと見てあげるからっ♡♡♡」

K「ああ、射精るっ!!!犬養さんの膣内につっ!!!」



犬養「わっわわわっ-----♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

K「うおおっ!!」

茜「すごっ、犬養の身体痙攣してるっ♡♡♡絶頂迎えるこんな風になっちゃうんだーっ♡♡♡」



犬養「はあ…っ、はあ…っ、はあ…っつ♡♡♡んあ…っつ♡♡♡膈内…っ、オマンコの中あ…っ、
熱いので…っ、いっばあい…っ♡♡♡」

K「う…っ！ふ…っ！！」

茜「K、ひとまずお疲れさま～っ♡♡♡申し訳ないけど、続けて2回戦イけるかな…っ？♡♡♡」

K「もちろん…っ。じゃあ…っ！」



茜「んあっ♡♡きたあ♡♡ぶっといのお♡♡んひっ♡♡あっ、あっ、あっ♡♡」

茜「すっ♡♡さっさ射精したばっかなのに♡♡全っ然っ、衰えてないっ♡♡さっままで
犬養の膣内に入ってたチンポがっ、今度はあたしのっ♡♡んおっ♡♡」

犬養「茜え…っ♡♡Kのオチンポ…っ、無敵だよお…っ♡♡あたしら魔女が…何人
かかっても…っ、勝てるわけないよお♡♡」



KFねーちゃんの膣内も…っ、ヤバいくらい気持ちいい！

茜「んっ♡♡んあっ♡♡気持ちいいっ♡♡Kチンポっ、あたしも気持ちいいっ♡♡
犬養の上でっ♡♡オマンコ突かれてよがりまくってるっ♡♡」

犬養「んもお…っ、あれだけあたしの膣内に射精したっていうのに…っ♡♡茜の事っ、犯したくて
たまんないっ、膣内射精したくてしよーがないんだね…っ♡♡」



茜「わかるでしょ、犬養もっ♡♡あっ、あっ♡♡これはっ、Kとあたし達のっ、交尾っ♡♡
あたし達はっ、Kに犯されるっ、そのためにっ、今まで生きてきたんだからあっ♡♡♡」

茜「魔男だとかっ、そんなの関係ないっ♡♡KがKならっ、それでいいっ♡♡オチンポの事だけ
考えられればあっ♡♡」

K「はあ、はあ！二人とも、エロすぎ…っ！！」



茜「射精してえっ、Kえっ♡♡あたしも犬養と同じに膣内射精してえっ♡♡♡
Kだけの所有物だって証を頂戴っ♡♡♡
ありたけのザーメンを、一番奥の子宮に、流し込んで欲しいのおっ♡♡」

犬養「K君っ、あたし達にいっぱい射精してっ♡♡♡K君の好きって気持ちっ、
全部快感に変換させてっ♡♡♡」

K「ああっ、射精る射精るっ!!」





茜「はあ〜〜っ♡♡はあ〜〜っ♡♡ねえ…っ、犬養…っ♡♡♡」

犬養「はあ…っ、はあ…っ、何よお…っ、茜え…っ♡♡♡」

茜「Kと知り合えて…良かったでしょ…っ♡♡今が人生最高の時…っ、
そう思わない…っ?♡♡」

犬養「そうは思わないわ…っ♡♡だって…最高なのはこれからずっと…でしょ…っ♡」

はあ

はあ

はあ

はあ